

平成15年(2003年)4月1日発行

新入生を迎える言葉

入学おめでとう。最近「中国の大学生は目を輝かせて勉学に励んでいる、日本はどうか」という方が多くなりました。日本の大学生は、もちろん、目を輝かせて勉学に励む者が大勢います。しかし、中には何のために大学に入ったのか自覚していない、目的意識の薄い者もいることは事実です。物が満ち足りている現在の日本の大学生にハングリー精神を持って勉強しろといった無理なことを求めません。しかし、誰でも好きなことを見つけたら熱中するものです。

参議院議員の有馬朗人先生は、旋盤だけを徹底的に学んだ旋盤工士が出たって良いじゃないかと提言されました。工学部で旋盤に関連する勉強だけに集中するというのは極端なようですが、「芸に秀でれば全てに通ずる」のことわざ

目的意識をもった学習を
好きなことに熱中しよう



学長 敬
神馬 神

ともあります。高精度の旋盤加工技術を開発するには単に機械工作法だけではなく、振動、潤滑、熱、数値制御、材料工学と幅広い学習が必要です。旋盤工士は本学での学習目標の一つとなります。

また、本学付設の工業技術博物館は前庭に線路を敷設し、112年前に英国で製造された実物の蒸気機関車と本学付属東京工業高等学校製のミニSLを本学の職員が定期的に運転、参観者の人気です。昨年末、本学が文部科学省の「教養教育の実施状況に関する実地視察」を受けた際、視察委員から「遊び心のある学園」と評価して頂けました。誰もが好きな鉄道を深く学ぶコースがあっても良いと考えています。今年の入学生の80%は工業高校で技術検定等の資格取得に励んできました。全国工業高等学校長協会では各種資格に点数をつけて高得点者を

「自己点検・評価」結果まとまる
大学基準協会に報告書提出

本学では大学基準協会による相互評価を受けるため、昨年秋から自己点検・評価を学内全体で実施し、平成15年3月下旬の相互評価の申請に向け「点検・評価報告書」と「大学基準データ調査」の作成、編集を行って

ます「点検・評価報告書」の作成についてだが、実施組織として基本事項検討委員会及び10の自己点検実施委員会(以下WG)を設置し、大学基準協会が示す項目を分担して点検・評価が行われた。そして、それらの組織から評価・結果をまとめた「自己点検・評価報告書」が自己点検運営委員会・大学部会に提出された。3月現在、自己点検運営委員会・大学部会に編集委員会を設置し、大学基準協会が示す「点検・評価報告書」の体裁を整えるため、編集作業中である。

大学基準協会が示す「点検・評価報告書」では序章、本章、終章の3部構成となっており、基本事項検討委員会およびWGから提出されたものは本章の部分にあたる。序章、終章に関しては編集委員会で作成し、また「大学基準データ調査」に関しては昨年6月に自己点検実施委員会事務局で作成し、現在、その確認・調整作業を行っている。申請書類としては、2つの調査の他、添付資料として大学刊行物や財務書類等も提出する。

申請書類の提出後、大学基準協会が提出された調査その他の資料等を整理・点検し、今年の秋頃に大学基準協会の評価委員会による実地視察が行われ、来年3月にその評価結果が通知されることになる。

「点検・評価報告書」は、再編集を行い「要約版」を全学に配付する。これは、本学の将来の改善に向けた計画立案のために貴重な資料になると考えている。さらにホームページなどでも公開していく。

自己点検・評価報告書の主な項目と内容の一端を紹介してみよう。

(0) 基本事項検討委員会
本学の理念・目的・教育目標、理念・目的等の検証、健全性・モラル等

(1) 教育研究組織
教育研究組織とその検証、教育研究内容/方法と条件整備、教育方法とその改善/国内外における教育研究交流

(2) 学部・学科等の教育課程
カリキュラムにおける高・大の接続、カリキュラムと国家資格、インターンシップ・ボランティア、単位互換、単位認定等

(3) 学生の受入れ
学生募集の方法、選抜方法、入学者の受入れ方針、飛び入学、留学生の受入れ

(4) 教育研究のための人的体制
教員組織、教育研究支援職員、教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続

(5) 施設・設備等
施設・設備等の整備、キャンパス・アメニティ等、利便上の配慮、先端的な設備

大学発ベンチャー
「ベキニット社」、順調に発展。
本年5月に丸6年を迎える



各種素材で製造された金属繊維

アルミニウム、ニッケルその他の各種合金等の金属繊維製品の開発、製造、販売を行っている。開発研究施設は本学内に設置されている。製品は本学・柳澤章教授の開発した画期的な金属繊維製造技術とベカルト社が培ってきた金属繊維製品に関する技術が手を結んだもので、多数のメーカー、ユーザーから支持され、用途が拡大している。日本では2輪車のマフラーや業務用厨房のグリルフィルターに実績があるが、今後は水素発生装置の電極材や医療用として期待されている。

同社の基本技術は「薄板コイル材切削法」による金属繊維製造法と呼ばれるもので薄板コイルを工具によって繊維状に切削するもの。製造装置が簡便で、繊維径が均一、かつその設定が容易。③適応できる材料が多い。④金属薄板の繊維組織に沿った切削なので、高品質の製品が安定して得られる。等の特長を持つ。

しかし、単にコイル材を切削しただけでは、金属繊維は得られない。そこで、もう一つの技術である「湯溶性樹脂被膜コイル材切削法」が開発された。これはコイル材に湯溶性樹脂をコーティングしてから切削し、繊維状にした後に樹脂を洗浄して製品として仕上げる。この技術により、ミクロン単位での切削が可能となり、製品が安定的に提供できるようになった。

なお、ベカルト社は世界最大のスチールワイヤー製造会社であり、世界18ヶ国に55箇所以上の生産拠点を持つ多国籍企業である。

埼玉県東部地区大学単位互換調印式



本学・神馬学長を中心に、左は獨協大・森原学長、右は文教大・石田学長

4月から獨協大、文教大と
単位互換協定スタート

獨協大学、文教大学、そあるが、今回の協定は本学として本学の3大学による、学とは異なる学部を有して、埼玉県東部地区大学単位互換協定の調印式が、去る2月26日に越谷市の文教大学を会場に行なわれた。

今回の協定の相手先である獨協大学・文教大学とは、間科学、国際学といった本学とは異なる学部を有しており、本学の学生にとって、特に文科系の教養科目の選択肢が広がる点が多くなり、互換のメリットとなる。逆に、獨協大、文教大の学生にとっては、本学の工学系の授業が新たな視野を広げてくれる科目となることだろう。

調印式当日は、文教大学の教務委員長から、5年にわたる経緯の報告があった後、3大学の学長が協定書に調印。そして、臨席した朝日・毎日の新聞記者の求めに応じる形で、それぞれ学長が、自らの大学の特色や、この協定への期待を述べた。

協定にもとづく受講学生の募集は、この4月から行なわれる。3大学から多数の学生が参加し、各大学の活性化を促すような刺激を与え合うことを期待したい。(詳細は教務課まで)



教務部長
廣瀬治男教授
(電気電子工学科)

フレッシュマンゼミって何？

(カレッジサクセス)

大学でフレッシュマンという新生、1年生のことを指します。ですから1年生の君が対象のゼミです。ちなみに、2年生はソホモア、3年生はジュニア、最上級生はシニアといわれています。

フレッシュマンゼミ(ゼミナール)は新しく大学へ入ってきた皆さんに先生方が「これからどのように学修していくのか」とか「これはどうすればよいのか」とか「これはどう考えるのか」とか、とか、とか、要するに日本工業大学に入ってから右も左も分からないことだらけの時に現れるお助けマンとして相談ののつてくれる時間と考えてください。

高校の時は時間割の中からくわずか自分の好きな科目とか、普通科なら文系か理系かを決めて大学入試に関係する科目を、専門高校なら英語をいくつ取るのが良いとか、担任の先生がアドバイスを下さったはずですが、本学では入学式の翌日からオリエンテーションという時間があり、共通(教養)系や専門学科の先生から、種々の科目の説明と単位の取り方のお話があります。オリエンテーションとはオリエン(東洋)へ向ける、東方へ向けるということから、方向性を定めるということに使っています。大学という所はこのようにカタカナ語をよく使うところですから、分からない時は辞書を引くなり、先生や事務の人たちに聞いたり前になつていますが初めての時は分からないのが当たり前、です。万事この調子で、分からない時は自分で調べるの

人と違うことを考えよう

機械工学科主任 梅崎栄作教授



フレッシュマンの皆さん、入学おめでとう。最初は戸惑うかもしれませんが、大学は、いろいろな出身地のいろいろな考え方を集まるところです。その中で、他の人々とは考え方や興味が違う自分(個性)を強く意識するように思います。大学においては、そのような個性を伸ばしてほしい

のです。個性を伸ばすことによって、他の人々とは違った形で社会によりよく貢献ができ、そのことによって自分の存在意義が生まれ、生きる喜びが湧いてきます。どのようにすれば、個性が伸ばせるのでしょうか。一つには、他人とは違うことを考え、行動することです。皆と違うことをするに勇気がいりますが、慣れるまで我慢して下さい。ただし、他人の個性を尊重することも忘れないで下さい。現在社会は、直面しているいろいろな問題を解決するために、諸君の個性を待っています。

夢中になろう

建築学科主任 波多野純教授



阪神大震災の経験から、地震に強い建物を造りたい。おばあちゃんのために、バリアフリーを目指したい。アジアで村おこしをしたい。好きな音楽のための建築を建てたい。建築学科の新生に限っても、夢は様々です。夢に近づくために、私たちは皆さんに協力し、悩みたいと思います。建築学科のカリキュラムは選択制を基本とし、個別

の学習計画が組めます。「設計製図すら必修でないのか」との、批判をたびたび聞きます。答えは明快です。設計製図は全員に積極的に学んでほしい。そのための内容の充実、私たちの責任です。興味を喚起しない課題や指導であつたら、堂々と批判をしてほしい。誰も履修しない、つまらない授業を繰り返す先生は辞めなければいけない。私は、このように考えます。当然、諸君も大きな責任を負っています。漫然と授業を受けていては、批判する資格はありません。真摯な、情熱的な関係を築きましょう。

何事も基礎が大切

電気電子工学科主任 石田之則教授



入学おめでとう。電気電子工学科を希望して新しい一歩を踏み出した皆さん、この機会に表題のことを考えてみませんか。何事についても基礎がしっかりとっていないと大成しないことは周知の通りです。私は電気電子工学の最も大切な基礎は「*ju*」と考えます。私たちの身の回りで見られることを大別しますと、時間にたいして変化

しないことと、時々刻々変わることに分けられます。後者のことを技術的に扱うには、時間に関する微分や積分が必要とされます。電子は時間とともに運動しますから、利用するには微積分の知識が必要です。しかし、「*ju*」という演算子の活用方法を修得できれば微積分の世話にほとんどならずに済みます。これは電気の大先輩が考え出された方法であり、皆さんにもしっかりと受け継いでほしいと思います。「*ju*」をしかり身につけ、基礎学力を充実されることを願っています。

自分から働きかける行動を

システム工学科主任 原 利次教授



ご入学おめでとう。大学の4年間は長いようで短いものです。そして人生の最も大事な最も充実した青春を送る場所でもあります。折角与えられた貴重な大学生活の機会を是非充実したものにして下さい。そのためには何が必要でしようか。授業では毎時間違った学生と一緒に学びます。教えてくれる先生も多種多様です。面白い先輩や

元気な仲間達も沢山います。大学生活で一番大事なことは自分から積極的に働きかけることです。受身では何も生まれません。授業だけでなくその後の時間を人間のネットワーク作りに利用してください。サークルに入るのもいいでしょう。仲間とパソコンづくりもいいでしょう。そういう付き合いから人生の大事な友人を得ることが出来ます。いろいろな人に交わってこそ本当の友人が出来るし、充実した大学生活が送れるのです。さあ、自分から積極的に動いて、大学生活を2倍充実させよう。

主体的な行動を！

情報工学科主任 樺澤康夫教授



新生諸君、ご入学おめでとう。将来の夢の実現への第一歩を踏み出すことになりましょう。情報工学は比較的新しい学問分野で、発展途上にあるためこの分野では学ぶべきことが多岐にわたりますので、卒業後の自分の将来像や目標を早めに定め、学習分野を少し絞ることが必要です。どのように授業

を履修すればよいかについては、1年次のフレッシュマンゼミで担当の先生方が相談ののつてくれますが、先生方が決めてくれるわけではありません。大学においては、自ら主体的に行動することが要求されます。ただ待っているだけでは、取り残されるだけです。このことをよく心に銘記して有意義な大学生活を送ってほしいと思います。また何事によらず、目標を一段上に置いて、自分にはできるという信念を持つてがんばってください。また、大学に入つた目的を自分に問い直すことをお願いしておきます。

積極的に生きよう

共通系主任 寺尾 裕教授



新生のみなさん入学おめでとう。この4年間をどの様に過ごすかがこの後の人生を考える上で非常に重要です。まず、基礎となる健康・時間・お金・生活環境の管理をきちんとしましょう。次に、学ぶ力を身につけましょう。人から教わったばかり、積み重ねただけの学習ではなく、自らの探求心に向かって、失敗を恐れず挑戦

していきましょう。そして、様々な事に参加し多くの人々と話をしましょう。人との交流の中で、いろいろな考え方や視点を知り、自分を客観的に捉える事で、自分の長所や特徴が見えてきます。さらに、会話する能力が磨かれれば、他人に自分を理解してもらうことができ、就職活動においても、社会生活の上でも非常に良いことです。厳しい時代ですが、こんな時だからこそ、これを好機と捉えて、どんなことにも挫けない強い精神力と豊かな人間性を身につけ、世の中で羽ばたきましょう。

*廣瀬教授は15年以上、教務部長の職にありましたが、4月1日より柳澤章教授(機械工学科)に変わります。

入学おめでとう

機械工学科

電気電子工学科

新入生諸君、ご入学おめでとう。月並みですが、入学後は大学のシステムに早く慣れ、自分が履修する授業を一日も早く日常的な軌道に乗せてください。

多くの大学では、何年か以前に「五月病」というのが流行りました。入学したものの、何をして良いのか解らなくなってしまうという、軽い心の病でした。五月病は、受験勉強の反動と考えられました。しかし、現在、多くの大学では少子化問題に直面しており、大学は入り易くなっています。それゆえ、逆説的に聞こえるかもしれませんが、大学は別の意味で学生諸君が何を学びたいのか、という目的意識を持つてほしいと願っているのです。また、同時に大学の教員は、どのような学生を育てたいのか自問しています。それぞれの大学は、個性のあること

なる教育を行なうことで、存立していくことを目指しているからです。幸い本学は、昭和四十二年の開学以来、一貫して実践的な技術教育を目指してきました。実験・実習に重きをおいた

広い視野に立ったエンジニアに



理事長
大川 陽康

で、また、他の大学とは異なる環境についてです。本学で

体験学習を行なってきたのです。私たちは、そうした教育が技術者としての原点であると考えています。もう一つ、みなさんに是非学んでいただきたいのは環境についてです。本学で

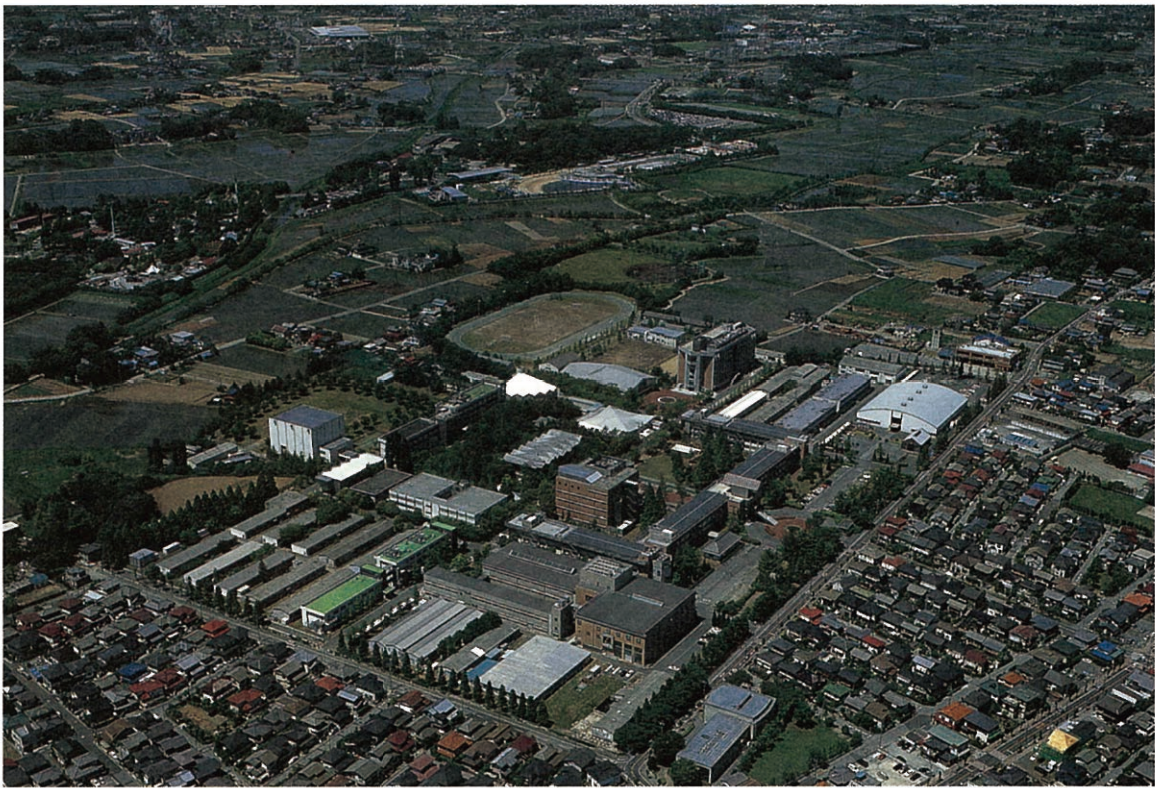
られていた水や空気、その空気を清浄化する森といった地球の環境を含めた資源が無限ではなく、有限であることに世界中の人々が気づき始めているのです。私はいま、諸君の勉学の健康を祈念して、入学の日

中に、こうした環境の問題を含めてほしいと思っています。技術者として解決すべき中心課題として考えてほしいのです。大量消費・大量生産の時代は、最早終りました。これからは価値の枠組みを変えていかねばなりません。温暖化ガスである、二酸化炭素の排出量の削減を決めた温暖化防止京都会議も記憶に新しいところです。今や、地球の温暖化防止は、環境という大きな枠組みの中であらゆる問題と連鎖し、一国のみで考えるべき問題ではないのです。

さて、最後に大学は「勉学の場」でありますが、同時に「人との出会いの場」でもあります。この大学時代に出会った人たちと、生涯にわたる友人となることも珍しくありません。本日から、多方面での諸君の健康を祈念して、入学の日

に贈る言葉とします。

建築学科



システム工学科

情報工学科

大学院工学研究科

◆博士前期課程

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

◆博士後期課程

【情報工学専攻】

【機械工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

【情報工学専攻】



学生相談室 相談員
浅野ミエ子

新入生の皆さん、ひとりで悩まないで！ 学生相談室においでください。

大学生活は、高校時代と違って、学びの環境ががらりと変わります。そのため人によっては、ストレスで体調を崩すこともあります。もし、そんな兆しを感じたら、気軽に話をしてください。特に親元を離れて独りで生活を始めた方は、一人で考えこまないで、学生相談室をご利用ください。一緒に解決していきましょう。

相談日：週2回（水曜日・金曜日） 時間：12：30～16：00
予約TEL：0480-34-4111（代表）内線371
相談室：1号館 1階 107号室
相談室TEL：0480-34-4111（代表）内線403 または 0480-33-7612（直通）

真面目だが授業以外は勉強しない学生も

●学生生活実態調査の結果●

平成一四年度の本学「学生生活実態調査」がこのほどまとまった。本調査は学生部（船橋昭一郎長）が平成一四年一〇月に実施したもので、本学学生の実態や意見がよくあらわれている。主な項目では、①出身高校は国公立七七・六％、本学付属東京工業高校一五・四％、②志望理由は推薦入学制度があったから五四・九％、先生に勧められて四〇・九％、③住居形態は「自宅」が六二・五％、「自宅外」が三七・六％、④月平均生活費は五万四四〇〇円⑤全体の約七割がアルバイト体験をもっており、⑥一日平均の勉強時間は六一％がほとんどしない、約三〇分が一四％と、あまり勉強していない、⑦授業に不満があつて欠席した人が一四・一％と前回調査の二倍になった、⑧大学祭への参加はやむを得ず参加を含めても三一・五％に過ぎず、⑨飲酒は飲まないが二七％に対し、週に一回以上が二〇％を超えている。また、タバコは七二・一％が吸わない、⑩本学に入つてよかったと思うことは「よい友人が得られた」「専門的知識、技術が得られた」が上位、⑪そして大学への要望・期待では、学費負担の軽減、授業方法の改善・工夫、情報環境の充実などが上位を占めている。以下、主な項目をグラフ・統計によつて紹介する。

图 1

	回答者数	107	129	107	85	117	545
合計	在籍学生数	1,038	1,034	1,032	808	976	4,888
		10.3%	12.5%	10.4%	10.5%	12.0%	11.1%

単位：回答者数及び在籍学生数〔人〕

图 2：学科

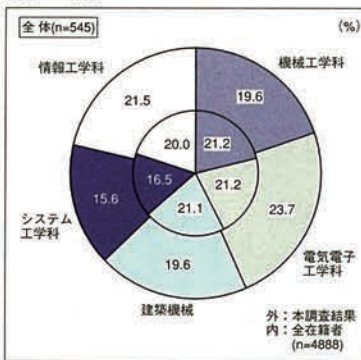


図3：入学年度

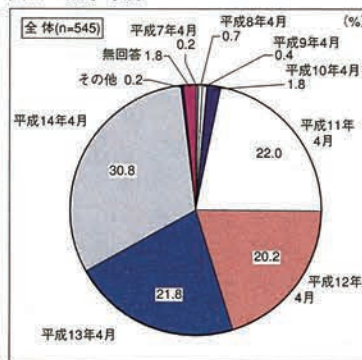


圖 4：設立区分

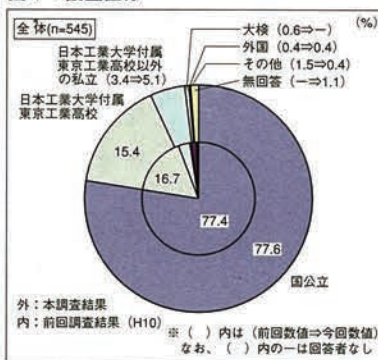


図5：日本工業大学を知った主な方法（人）



図6：日本工業大学を志望した動機（複数回答可）

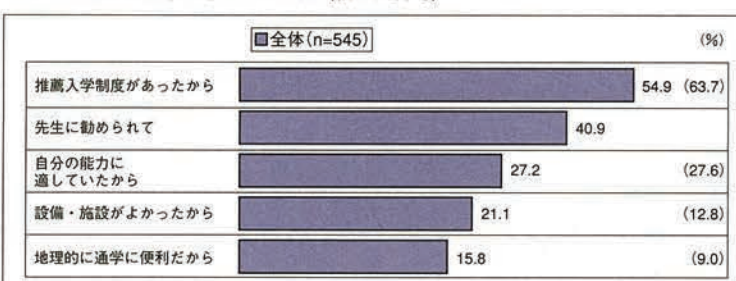


圖 7：住居形態（1）

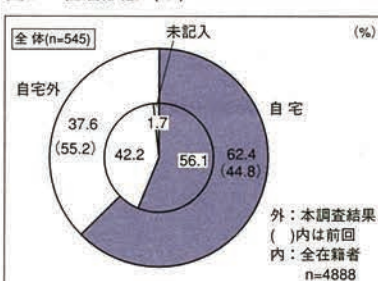


図8：〇月平均の生活費収入額（授業料等の大学納付金を除く）

設問番号	設問内容	全体	自宅	自宅外
Q20	合計	54,400 (69,100)	39,700 (53,100)	78,300 (92,000)
	Q21～Q24の合計	78,200 (180,900)	62,700 (159,600)	103,800 (207,000)
Q21	家庭からの給付（こづかい・仕送り）	28,800 (40,500)	12,000 (19,300)	56,600 (65,600)
Q22	奨学金	20,400 (67,200)	18,100 (69,000)	24,100 (65,100)
Q23	アルバイト	27,300 (54,000)	31,100 (54,900)	21,000 (51,900)
Q24	その他	1,700 (19,200)	1,500 (16,400)	2,100 (24,400)

（注）数値は「1～4000円」→「2000円」のように中央値で算出している

図9：アルバイトをする主な理由

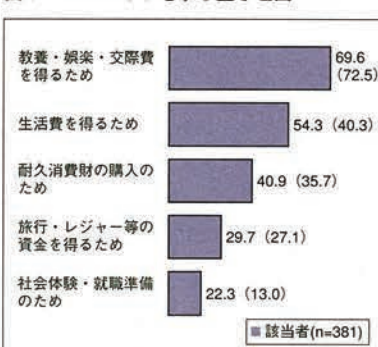


図10：加入団体（主なもの）（Q48～Q53まではQ46の加入者のみ回答）



図11：通常の1日平均の勉強時間（授業、試験期間中除く）

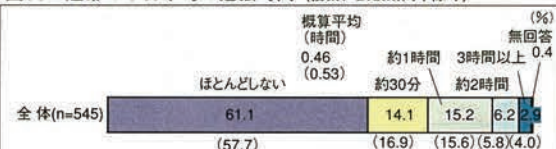


図12：月平均の読書数（教科書等は除く）



図15：日本工業大学に入ってよかったと思うこと（3つまで回答可）

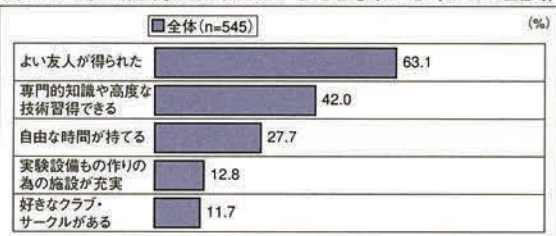


図13：満足している授業

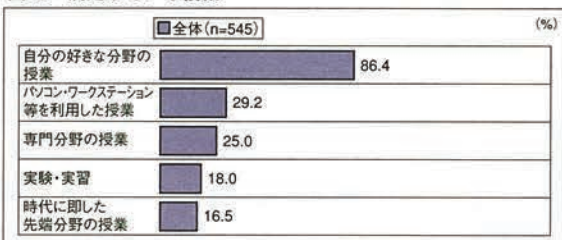


図14：授業を欠席した理由（主なもの）（複数回答あり）

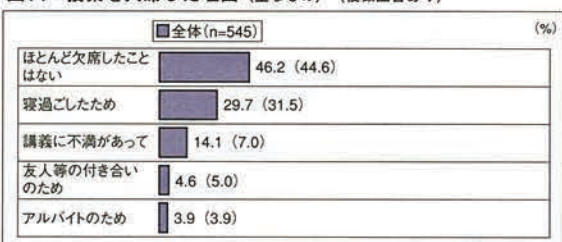
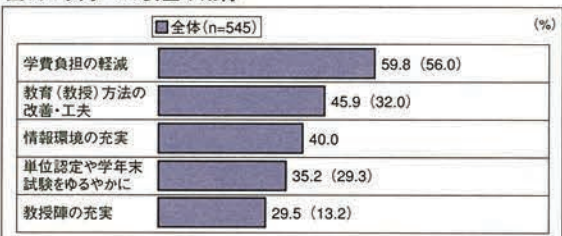


図16：大学への要望や期待



●本調査の概要(図1、図2、図3)

母集団は平成一四年八月一日現在在籍者四八八名の中から無作為に一五〇〇名を抽出、そのうち三六・三%にあたる五四五名から回答を得た。全在籍学生に対する回答者の割合は一一・一%(図1)。

学籍状況は、図2、図3に示す通りである。

出身は

国・公立が多い

●出身高校と本学を知った理由(図4、図5)

出身高校は国公立七七・六％で圧倒的に多い。本学付属東京工業高校は一五・四％、その他の私立校は五・一％、また、本学を知った理由は、人では高校の先生が各学科とも七〇％前後と高く、人以外では進学ガイダンスが四〇・七％、本学刊行資料が三・一％、受験雑誌が一九・三％となっている。

●現在の住まいと経済状況
(図7、図8)

住居形態は「自宅」六二・五％に対し、「自宅外三七・六％で、自宅からの通学者が圧倒的に多い。自宅」派は、前回調査と比べても六％強増加しており、景気動向と小子化を反映したものと見られる。

経済状況は、自宅通学者の約四万円に対し、自宅外は約二倍の七万八千円になっている。逆にアルバイト

収入は自宅からの方が月一万円ほど多い。

●アルバイト経験（図9）

情報工学科を例外として他の学科は七〇％前後がアルバイトを経験しているがその理由は教養・娯楽・交際費を得るためが約七割で生活費を得るためを上回っている。

●課外活動について（図10）

課外活動に加入している人は三一・六％で、加入していない人は五三・六％に達している。また、途中でやめた人も一〇・五％もい

る。加入団体の主なものは、図の通りである。

勉強しない

家ではほとんど

●学生生活について（図11）

週平均の登校日数は全体でみて五日または六日が約八〇％でほぼ毎日登校している。また、一日平均の在学時間も六〜八時間と八〜一〇時間を加えると約六〇％になり、登校日数に在学時間をかけると学内で長い時間を過ごしていることがわかる。しかし、問題なのは勉強時間で、授業、試

験期間を除く通常の一日の勉強時間は六一%がほとんどしないと答えている(八・七%平均)。その他、一日平均の睡眠時間は六、八時間間約七〇%で、四時間以下四・八%いる。また、朝食を食べない学生が二七・七%もいることもわかった。

●あまり本を読まない学生
 (図12)

本調査では図書館利用状況の調査に関連して、月平均の読書数(教科書などは除く)を調査したが、結果は図に示すとおり、読まない学生が三七・四%、一冊

● 講義に不満の学生も (二)
13・(図14)

授業についての回答は満足している授業として分の好きな分野の授業パソコンなどを利用した授業、専門分野の授業をあてているのに対し(図13)、授業を欠席した理由(図14)には講義に不満があつて、一四・一%あり、前回調査の七%から倍増しているが注目される。

● 本学に入って良かった
と(図15)

本学に入ってよかった
と思うことを複数回答で集
めた結果「良い友人が得
れた」が六三・一％で断
トツプになった。次いで
「専門知識や高度な技術習
ができること」四一・〇％
「自由な時間が持てること」
二七・七％と続いている。
四位以下は十％台に比率
下がり、「実験設備ものの作
りの為の施設が充実」、「好
なクラブ・サークルがある
」となっている。

教育方法の改善・工夫を

●大学への要望や期待（16）

大学への要望、期待で「学費負担の軽減」が約〇%でトップだが、二番に「教育（授業）方法の善・工夫」が四五・九%前後調査時の一・五倍になっていることが注目され図14の授業を欠席した理の「講義に不満」という目とあわせて、もっと突込んで調査すべきではないとも考えられる結果である。

「エコマークTシャツ」のお勧め

後援会（在校生父母の会）の支援を受け、学生のISO活動をサポートするため、ISOの認証マーク付き「エコマークTシャツ」を開発、4月中旬よりサービスセンターで発売する。

デザインは、ホンダF1、ニスモ（日産スポーツモーター）、トヨタ・チーム・トランスなどのモータースポーツウェアに幅広い実績を持つデザイナー・前田進司氏が担当。デザインの初期段階から、本学学生自治会・中央執行委員会のメンバーの意見を聞き、デザインを煮詰めていった。

Tシャツ本体の色は、ホワイト、ブルー、ブラックの3色。この3色は本学のマークに使われている色で、ツ、トレナーも用意している。

ISO活動のみなさん、ぜひ活用してほしい。



●イメージとカラー見本



3年目に突入！ 学生環境推進委員会活動

学生自治会の代表者9名でスタートした委員会も、大学のISO14001認証取得に合わせ、初年度は環境方針、2年目はマニュアルを完成させ、いよいよ3年目に突入した。

メンバーも30人に増え、昨年は消防・救命訓練を実施、さらに今年度は、リサイクルの重要性をアピールするため不要となった生活用品を回収し必要な学生に提供するユニークな企画も実現させ、より一層の活躍が期待される。

学生環境方針

日本工業大学学生自治会は、大学とのコミュニケーションや連携を促進し、学生自身の環境マネジメントシステムを構築し、実践し、継続的改善をはかり、

1. 私たちは、21世紀を担う若者として、地球環境に対する有意な取り組みが主体的に行えるよう心掛けます。
2. 私たちは、積極的に学び、研究し、環境に優しいエンジニアを目指します。
3. 私たちは、学生生活全般を通してマナーやモラルの向上をはかり、自らの学習環境を大切にします。
4. 私たちは、エネルギーや資源を有効に使い、大学が掲げる「クリーン・グリーン・エコキャンパス」の達成を積極的に推進します。
5. 私たちは、自らの環境保全活動が、地域住民と調和し、理解され、互いに協力しあえるものとなるよう努力します。
6. 私たちは、この学生環境方針を達成するために、一丸となって環境保全活動を推進します。

私たちが創造していく21世紀の白い世界

“目指せ3つのE改革”
Ecology & Energy & Engineer

平成15年10月10日
日本工業大学学生自治会 中央執行委員会
平成13年度 委員長 佐藤 人計
平成14年度 委員長 西尾 正明
平成15年度 委員長 藤下 貴雄

学生環境方針は、全学に配付されている

近事片々

「カキーン・カキーン」鋭い金属音とともにやまびこのように球音がこだまする。ここは徳島県の上野地区に位置する三好郡池田町である。大学卒業を目前に控えた昭和六十二年三月、私は徳島県立池田高等学校にいた。当時「池田高校」と言えば、「攻めタルマ」の愛称で知られる故・葛城也監督の指導のもと、春夏の甲子園連続優勝を果たすなど、高校野球界では有数の強豪校であった。

先輩だより



グ練習が続いた。ものすごい迫力で打球が山に吸い込まれるように飛んでいく。しかし、驚いたのはそれだけではなかった。いまだに見たこともない選手達の目の輝きである。数日間練習を見学させて頂いたが、辛

「意欲」こそ基本

石井栄治（旧姓・吉田）
（大船渡工業高等学校出身）
建築学科第17期生
岩手県立大船渡工業高等学校
建設工学科教諭

直村さんから「勉強を教えることだけが教員の仕事じゃないと思うよ」と言われた。教員になる以上、専攻していた建築は勿論であるが高校野球の指導者になることも考えた。

現在私は、母校でもある

て語り合ったりした。そういう生活の中で先生方のアドバイスや仲間の励めもあって、教員の道にすすむことになった。建築の現場も知らないで就職に就くことに不安のあった自分、野球部でお世話になっていた

岩手県立大船渡工業高等学校に勤務している。お陰様で一年生の担任をさせていたが、たまたま野球部の指導にも携わっている。これも、素晴らしい先生方や仲間との出会いがあったおかげである。高校三年間の生徒の成長を見ると、信じられないくらい大きく成長する生徒もいれば、残念ながらもやがてな生徒もいる。伸びる生徒と伸びない生徒の一番大きな差は「やる気」である。いつ、どこで、何をやるにも基本的には「やる気」である。この「意欲」であると思う。この数年、教育現場は学力低下や無気力生徒などの問題を抱えている。十六年前の池田高校のように、生徒達が目を輝かせて意欲をもった毎日を送るようなクラスであり、クラブであり、学校であればと願ってやまない。生徒とともに只今挑戦中である。

新任教職者



谷本 直教授



山田 利一教授



渡辺 顯教授



吉澤 信幸教授



増本 憲泰講師



村田 泰彦講師



廣澤 史彦講師



岡本 美雪講師



鈴木 学実験講師



木崎 康男教授

とを約束します。（F）

夏季休暇を利用する 2つの海外研修募集!!



- ◆英会話・カナダ特別セミナー
【内容】一般家庭にホームステイしながらUBC（ブリティッシュ・コロンビア大学）に通学、グローバル時代に対応できる会話能力を集中的に学習する。
【対象】1年～4年生
【期間】8月17日（日）～9月10日（水）
【参加費用】49万8千円
【特典】2単位授与
【受付】履修申告時（第一次）
【説明会】4月10日、16日、23日（いずれも水曜日）の昼休みに2号館178教室にて（教務課）
- ◆ヨーロッパ研修
【内容】古代から現代に至るヨーロッパ文明の神髄に触れ、異文化を理解し国際センスを養う。
【期間】9月5日（金）～9月17日（水）
【研修地】ロンドン・ローマ・パレルナ・パリの4ヶ国・4都市
【参加費用】39万8千円（「学生シュートローン」を利用した6ヶ月の分割払いも可能）
【説明会】4月23日（水）12時50分より学生課で。【参加受付】4月9日（水）～6月27日（金）までに、学生課用紙の「研修参加書」に必要事項を記入して提出（学生課）

人事異動

- 【任用】（4月1日付）
◆村上 寛知（図書館事務課）昭和49年7月26日生まれ。平成15年茨城大学大学院理工学研究科数理科学専攻修士前期課程修了。
- ◆岡本 美雪講師（共通系）昭和43年1月8日生まれ。平成9年早稲田大学大学院理工学研究科数学専攻修士前期課程単位取得満期退学。博士（理学）（早稲田大学）元早稲田大学教育学部助手。
- ◆木崎康男教授（共通系）昭和9年2月18日生まれ。昭和31年東京大学工学部卒業。元公立学校校長。
- ◆杉本 賢広（図書館事務課）昭和55年8月15日生まれ。平成15年埼玉大学理学部基礎化学科卒業。
- 【任命】（4月1日付）
◆教務部長 柳澤 章教授
◆総務部長 藤田 則夫財
◆財務部長（異動）
◆財務部長 酒井 康夫財
◆財務部長補佐（昇任）
【昇任】（4月1日付）
◆酒井 誠助教授（共通系）教授に昇任
◆寺島 幸雄講師（機械工学科）助教授に昇任
◆中里 裕一講師（機械工学科）助教授に昇任
◆月澤 祥晃講師（機械工学科）助教授に昇任
【解任】（3月31日）
◆廣瀬 治男 教務部長
◆鈴木 昭正 総務部長

編集後記

4月、入学の季節がめぐってきました。数年前から秋季（10月）入学制度も始まっているようですが、圧倒的多数の入学者が、4月から本学の一員になってくれました。とにかく、入学おめでとう。希望と不安の入り混じった複雑な思いで入学を迎えたであろうと想像しています。先般、学生部で調査・集計した「学生生活実態調査報告書」によれば、「専門的知識や高度な技術を習得する」が大学生生活の目的の一番にあげられています。しかし、学年が上がるに従い、その割合が減り「豊かな教養を身につけること」の割合が増えています。4年間で多様な経験を積み重ねることにより、専門知識や高度な技術のみならず、ひろく教養を身につけることの必要性を感じた結果であるかと思えます。大学生生活は、自分の意思により、どのような道に進むかが可能です。入学してよかったことでは「よい友人をえられた」と答えているように、様々な新たな出会いもあります。日本工業大学は、すべての学生に満足を与えられないかも知れませんが、学生諸君とともに出来る限り努力していくことを約束します。（F）